

痴呆ケアの歴史からみた  
今後の課題  
利用者本位のグループホーム的ケア  
推進の重要性

高齢者痴呆介護研究・研修東京センター  
永田 久美子



### 痴呆の人の特徴

<記憶の断線、見当識低下、判断・実行の障害>



#### 本人にとっての体験は？

- 戸惑い、不可解の連続: 想像を越えた不安・恐怖
  - ・自分のコントロールができなくなる  
(行動、からだ、こころ、自己)
  - ・いつもの場が怖い→ストレス耐性の低下
- 秘められた底力を発揮できない: 無念、恥、怒り、孤独

環境とケアが本人の体験を大きく左右

\* 適切な環境とケアの重要性(障害の最小化)

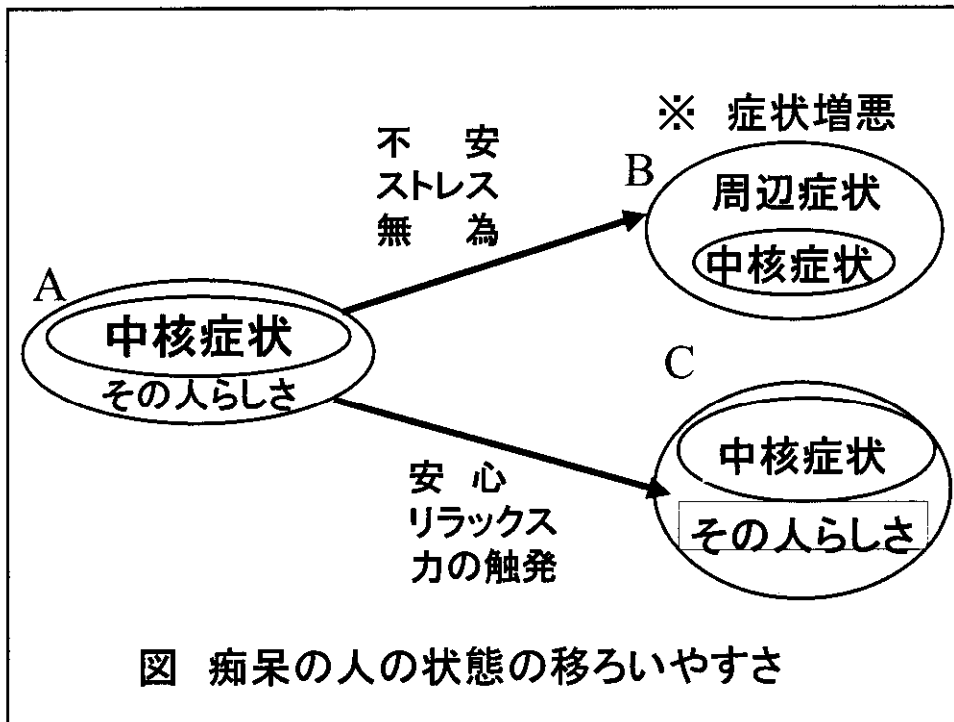


図 痴呆の人の状態の移ろいやすさ

## 痴呆ケアの進化の歴史

\*グループホームが  
牽引役

- 1970年代 ①ケアなきケアの時代  
理念・方法論なし  
魔の3ロック(拘束、薬やことばで抑えこむ)、収容
- 1980年代 ②問題対処型ケア  
③探索型ケア(背景・意味)  
④可能性追究型ケア  
⑤居場所や環境を重視するケア
- 1990年代 ⑥痴呆の人の権利重視のケア  
\* 以上の到達点を総合し「痴呆でも地域の中で  
その人らしく当たり前に暮らす」ことを支える  
全人的ケアの場としてグループホームが登場
- 2000年代 <介護保険の導入>  
⑦グループホームが特殊なものから  
一般的なケアとして普及(例)ユニットケア

失敗の  
歴史  
(専門家本位)  
模索  
新しいケアの  
挑戦  
利用者本位の

## 痴呆ケアの課題

- ①ケアの質の格差(サービス基盤整備量とは別物)  
1レベル ケアなきケア ←→ 7レベル グループホームケアの普及  
グループホーム的ケアの理解と普及の格差
- ②利用者中心の継続的支援システムの確立が発展途上  
(各現場の連携プレーを保証するシステム)
- ③質の確保・向上を一貫して推進するシステムが開発途上  
※グループホームではそのシステムが出来つつある  
研修—スーパーバイズ—評価—モニター
- \* 一貫させる思想・方法をくみこまないと  
せつかくの各々のとりくみ・制度が形骸化する危険

## グループホーム的ケアとは

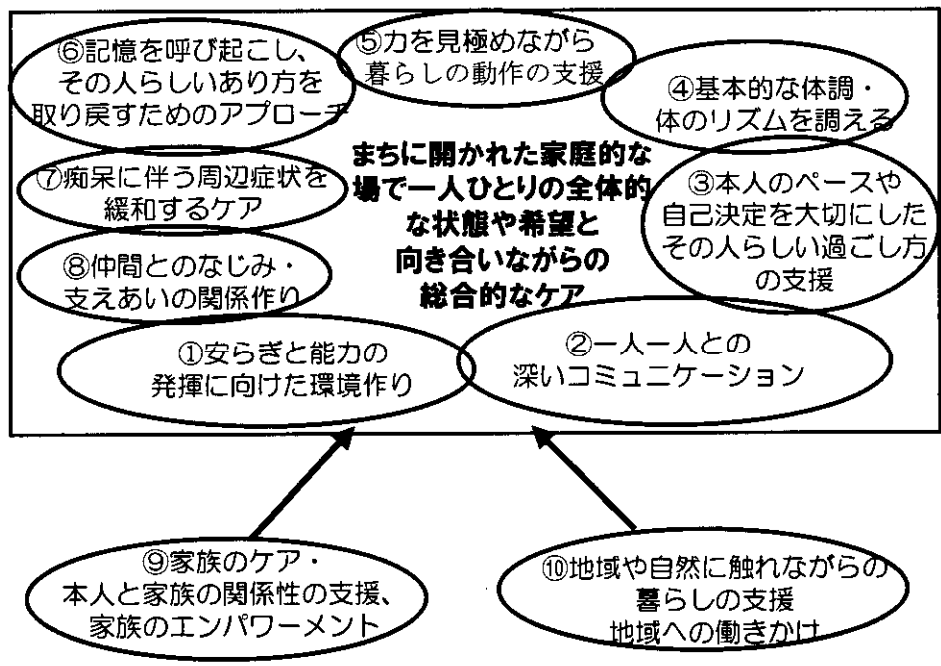
{ グループ: 一人にしない、そばで誰かが見守る  
 自分と人の力の総動員  
 ホーム : 馴染んだ生活環境を重視、  
 なごみと活力を生み出す「馴染みの環境作り」  
 ケア: 痴呆の特長を活かした積極的ケアを  
 推進するプロのケア

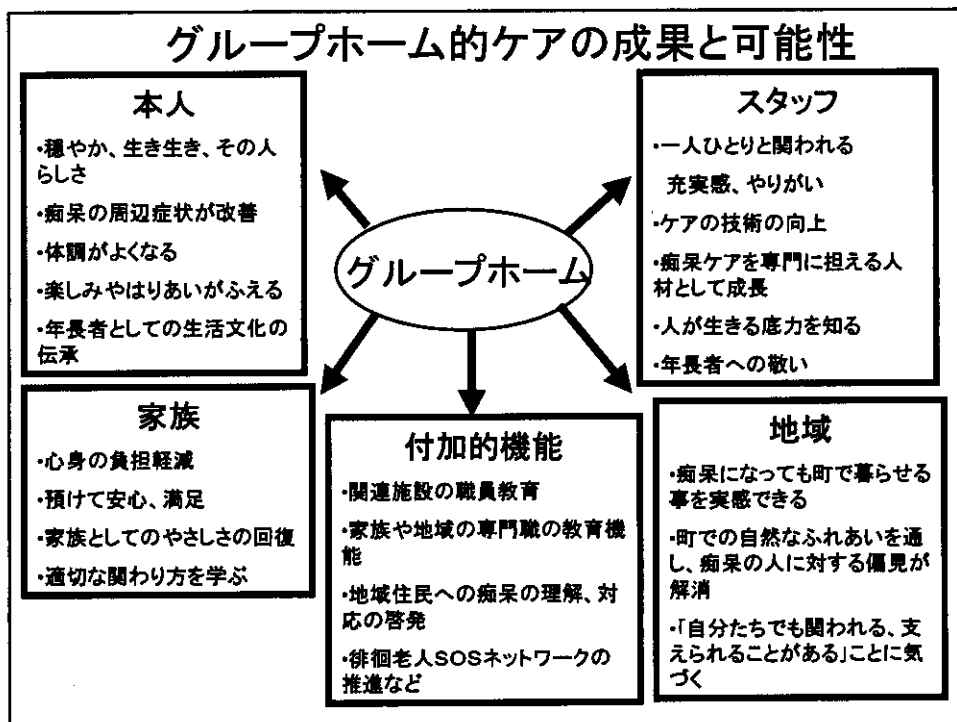
ゆったり・生活を共にしながら・人の可能性への希望

ケアの本質とその可能性の伝播が急務

\* このためひとつの挑戦がグループホーム

### グループホーム的ケアの技術(これらを生活の中でさりげなく)





生活文化の継承者としての痴呆の人			
(からだに刻まれた記憶が <u>くらし</u> の場で蘇える)			
社交 儀礼	家事・仕事	たのしみ	
・時候の挨拶	・ゆすぐ	・季節のならわし	
・美しいお辞儀	・しぼる	・手作りのおいしいもの	
・お客のもてなし	・研ぐ・磨く	・郷土の昔話、地元の 名スポット	
・ハレやケのふるまい	・掃き清める	・年季の入った趣味・技	
他	・捨てない	・智者のユーモア	
	・あるもので作る	他	
	・全身仕事 他		
(グループホームの職員の報告「入居者から教わった事」)			

〈痴呆ケアの拡充に向けた今後のキー方策〉  
 1)グループホーム的ケアの理解と普及に関係者が  
 全力を注ぐ <体験型啓発、研修>

- サービス提供者
  - ・グループホーム
  - ・在宅サービス(特にケアマネ)
  - ・施設・病院(ユニットケアのみでなく既存の施設に)
- 利用者・家族介護者
- 町の人々:痴呆ケアの素晴らしい資源が町に  
眠っている、貴重な支え手として
- 行政関係者

\*痴呆ケアの本質を行政関係者も理解し、ケア関係者にしっかりと伝え、地元のとりくみを蓄積・継続させていくことが最も重要

2) 良質なグループホームを身近な所にふやす  
〈系統的効果的なグループホーム支援を〉

立ち上げ支援—研修—評価—スーパーバイズ  
\* 行政と事業者、地域資源が協働して

〈実例モデル〉

- 全国痴呆性高齢者グループホーム協会の事業
- 全国のいくつかの自治体での  
グループホームを拠点として地域痴呆介護を  
推進する事業

☆グループホームが継続的生活支援の場  
(重度化、ターミナルケア)にバージョンアップ  
していくための後押しを

- 事業者の大半は役割意識を持ち、  
チャレンジへの期待を持っている
- 現利用者にとってターミナルケアの課題は  
まったなし

## グループホームでターミナルケアを行うことについての意識

N=1156(うち開設後3年未満が89%)

・ケースごとに条件整えながら前向きに援助していきたい	44.6
・制度上、条件整えば援助していきたい	22.3
・体制や力量上困難	18.7
・よくわからない、その他	6.3
・無回答	4.2

- \* 開設後年数が経たグループホームほど、前向き意見が多い
- \* 実践例を体験しながらターミナルケアの力量と自信を高めている

(グループホームのターミナルケアに関する研究班・中間集計)

痴呆になったことは残念なこと。

でも、決して不幸な事ではない。

母さんが、ここでこれまでの人生で最高の  
笑顔を見せてくれる・・・。

(実母のいるグループホームと一緒にご飯作  
りをしにくる娘の声)



